

論文内容の要旨

報告番号		氏名	相原 加苗
CASII日本語版を活用した地域を基盤とする虐待防止システムの可能性の検討			

論文内容の要旨

虐待が子どもに与える精神・心理的影響は甚大で幅広く、虐待を受けた子どもに対する多面的な精神保健的アセスメントは重要である。本研究では、我が国の虐待対応の主たる機関である児童相談所の一時保護所入所児童を対象に、精神保健ニーズの視点から子どもへの支援の強度を評価する方法である、児童青年レベル・オブ・ケア評価尺度 (Child and Adolescent Service Intensity Instrument 以下「CASII」) を実施し、その結果を検討した。そのうえで、CASII を活用した児童虐待防止の具体的方策を考察した。

CASII 日本語版は、6歳から18歳の子どもに適用され、評価項目として6次元 (8項目) のサブスケールがあり、それぞれ5段階でケアニーズのレベルが評価される。最終的に評価の合計スコアから、推奨レベル・オブ・ケア (level of care 以下「LOC」) が判定される。今回、A 市児童相談所において、一時保護児童31名を対象とし CASII 日本語版の評価を行い、その結果を Mann-Whitney U test を用いて検討した。

その結果、虐待群の推奨 LOC3以下の群 (以下「L-L 群」) と、推奨 LOC4以上の群 (以下 L-H 群) における CASII サブスケールの平均スコアの比較では、L-L 群に比べ、L-H 群では、I (危害のリスク)、II (生活機能の状態)、III (併存障害) といった本人の特性が関与するサブスケールにおいて有意に高かった。また、虐待群における推奨 LOC は5の子どもが最も多かったが、対象児の半数以上が推奨 LOC より実際の LOC が低く、推奨されるレベルより低い支援提供にとどまっていた。

以上より、虐待事例では、高いレベルのケアが必要な事例ほど、環境面だけでなく、生活機能など本人の側面にも焦点を当てる必要性があることが明らかになった。また、児童相談所が処遇判定に関わる子どもの評価において、子どもの支援ニーズを的確に評価できず、適切な資源に繋がられていない可能性が十分にあることも明らかになった。これらを踏まえ、地域におけるネットワークにおいては CASII を多職種の共通言語として用いることで支援の充実を図ること、また CASII を用いて縦断的経過を追跡、支援の妥当性を検証することで地域の支援力を高めながら、地域資源を開発することが虐待予防システムにおいて有用であると考えられる。